

地震防災

地震が起きて、あわてず行動を！

こんな場所で地震にあったら

**あわてず
周囲の状況に応じて
まず身の安全を確保**

家では

- 身の安全を確保する。
- すばやく火を消す。
- 窓や玄関の扉を開け、脱出口を確保する。



オフィスでは

- 机上のOA機器の落下に注意し、すばやく机の下にもぐりこむ。
- 外へ逃げるときは落下物に注意する。



学校では

- 急いで教室から飛び出さないで、まずは机の下にもぐり、頭を保護する。
- 地震の揺れがおさまったら教職員の指示に従う。



エレベーターの中では

- すべての階のボタンを押し、最初に停止した階へ降りる。
- 停電などで、ドアが開かなくなったら非常ボタンを押し指示を待つ。



スーパーでは

- 買い物かごやバッグ等で頭を保護する。
- あわてず係員の指示に従う。
- 避難の時は階段を使う。



電車では

- つり革や手すりに両手でつかまる。
- 足を踏ん張って前かがみ姿勢をとり、カバンなどで頭を保護する。
- 電車の外には出ないで乗務員の指示に従う。



屋外では

- ブロック塀や石塀、電柱や自動販売機からすぐに離れる。
- ガラスの破片、看板などの落下物に注意し、持ち物で頭を保護する。



車の運転中

- ハンドルをしっかり握り、少しずつスピードを落とし道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで車内で待ち、ラジオで地震の情報を確認する。
- 車から離れるときは、キーはつけたままで、ドアロックはしない。



地震に備えて家族で話し合い

地震はいつ起こるかわからないので、家族全員が一緒に行動できるとは限りません。地震が起きた時に、あわてず行動ができるように、日頃から家族で話し合っておきましょう。

★家の中で安全な場所はどこか。



★避難するときに、誰が何をもち出すか。



★非常用持出袋はどこに置いておくか。



★乳幼児や寝たきりの方が居るときには、誰が付き添うか。



地震避難時の注意事項

地震が発生しても激しい揺れは、通常最初の1分です。大きな揺れがおさまったら、すぐに避難するのではなく、まず、自分の安全を確認し、隣近所で声を掛け合って、出火の防止、初期消火など、被害を最小限にとどめることが大切です。また、自主防災会や自治会などであらかじめ決められている小・中学校や公園などの避難場所へ徒歩で避難しましょう。

●まず身の安全を



地震が起きたら、テーブルの下に身をふせるなど、自分の安全を確保しましょう。

●すばやく火の始末



台所や暖房器具の火をすばやく消しましょう。避難する前に、ブレーカーやガスの元栓を切りましょう。

●戸を開けて出口を確保



出口の確保をしましょう。特にマンションなどの中高層住宅では、出口の確保が必要です。逃げ口を失うと避難ができません。

●火が出たらすぐ消火

もし火災が発生しても天井に燃え移る前ならあわてることはありません。落ち着いて消火活動しましょう。



●あわてて外に飛び出さない

危険ですので、あわてて外に飛び出さないようにしましょう。逃げるときは瓦やガラス、看板などの落下に注意しましょう。



●頭を保護

ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護し、住所・氏名・電話番号等を記載したシールを貼りましょう。



●山崩れ、がけ崩れに注意

山やがけ付近では崩れる危険性があるので、安全な場所に避難しましょう。居住地の自然環境をよく知っておくことが、二次災害防止には大切です。



●徒歩で避難

車での避難は、交通渋滞が発生し、緊急車両の通行を妨げるおそれがあります。車での避難は避けて、徒歩で避難しましょう。



●隣近所にも声をかけて

自力で避難することが困難な方は、早めの避難が必要です。お年寄りや子どもが安全に避難できるように協力しましょう。



●正しい情報を聞く

ラジオ・町役場・自主防災会などからの、正しい情報入手し、的確な行動をしましょう。



緊急地震速報です！



緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源に近い地震計で観測されたデータを解析して、強い揺れが予測される地域を、揺れが来る前にお知らせするシステムです。情報が出てから揺れが来るまでには、数秒から数十秒程度の時間しかありません。身を守ることを第一に、落ち着いて行動することが大切です。情報が出たらどのような行動がとれるか、日頃から話し合っておきましょう。